

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2021年度 助成者)

作成日 2021年9月9日

氏名 (フリガナ)	三治 聖平 (サンジ ショウヘイ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2021年8月17日 (火) ~ 8月21日 (土) オンライン (Zoom)
大学名	藤田医科大学
学年	6年
<p>今回私は公共財団法人日米医学医療交流財団様より助成を頂き、Hawaii Tokai International College 主催の医学部夏季集中医学英語研修に参加させていただきました。このプログラムは毎年8月に開催される主に5, 6年生を対象にしたプログラムで、将来海外研修を行う際に必要となる英語での問診とケースプレゼンテーションの基礎力を身に付けることを目的としています。プログラムの期間は一週間で、基本的に進行は全て英語で行われるため一週間でかなりの英語に曝露することができます。</p> <p>プログラムの内容は非常に実践的で午前中は主に日本人の学生同士で医師役と患者役に分かれて問診を取り合って Director の先生に発表を行い、フィードバックを頂きます。そして午後はハワイ大学の学生 (JABSOM student) に患者役をしてもらい今度は先生方と学生の両方からフィードバックを貰います。このクールを一週間繰り返すため、プログラム終了時にはかなり自信を持って問診をして、その症例を発表することができるようになりました。もちろん私も初めは右も左も分からない状況だったのですが、頂いた教材と先生方や JABSOM student からのフィードバックがしっかりとあるため初学の方でも安心して学ぶことが出来る環境であると感じました。</p> <p>また、問診と発表の練習の間に一日二回ハワイで働かれている先生方からのレクチャーがありこれも大変勉強になりました。アメリカ人の先生方からは Medical School に入るまでの道のりや難しさ、そして入学した後も厳しい競争社会が広がっているためアメリカの医学生は大変ハードな日々を送っているということをレクチャーして頂きました。また、学業成績に応じて将来の進路や診療科がある程度決まるため、良い点数やコネクションが重要ということは繰り返し強調されており、実際そのことを JABSOM の学生に聞いてみると皆そうなのだよと少し困ったように言いながらも話が盛り上がり、実際のアメリカの医学生がどのように考え日々を過ごしているのかを垣間見ることが出来ました。また、ハワイで働かれている日本人の先生方も多く登壇してくださり、どのように現在の状況を実現されたのか、またそのためには学生時代や研修医の間にどのような事が出来るかなどを詳細に教えていただき、大変良いモチベーションになりました。</p> <p>また、プログラムの中で関わらせて頂いた日本の医学生の方々には皆しっかりと目標を持って勉強されている方が多くレクチャーの間も沢山の質問が挙げられ、積極的に発言しようという空気感が全体を通してあったため大変刺激されました。今年は残念ながら COVID-19 の影響でオンライン開催となってしまいましたがオンラインである事を全く感じないほど進行が非常にスムーズで大変充実した時間を過ごすことができ、海外との交流が難しい今の時代に大変貴重な機会を頂けたことに感謝しております。</p> <p>なかなか海外での実習が難しい時代ではありますが、今回学ばせて頂いたことを忘れないように定期的に学びなおしていくと同時に、もし今後英語での問診や発表を行う機会があれば積極的に参加させていただきたいと思います。また、こうして問診力やプレゼンテーション能力をじっくりと練習することが出来る機会は本当に少ないので、もしこのプログラムに興味のある方がいらっしゃれば強くお勧めしたいと考えております。私自身もマッチングや試験の関係で参加を迷いましたが本当に参加してよかったと感じています。</p> <p>日米医学医療交流財団の小玉先生、事務局の方々、医学部夏季集中医学英語研修のスタッフの方々この度は大変貴重な機会を頂き誠にありがとうございました。</p>	